

レンジフードファン取付説明書

安全上のご注意

取付の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けを行ってください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすることを生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告： 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

注意： 人が損害を負う可能性及び物的危害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

警告

修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをすることがあります。

メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けすること
漏電した場合、発火したり感電することがあります。

交流100V以外では使用しないこと
発火・感電の原因となります。

配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行うこと
誤った配線工事は感電や火災の恐れがあります。

注意

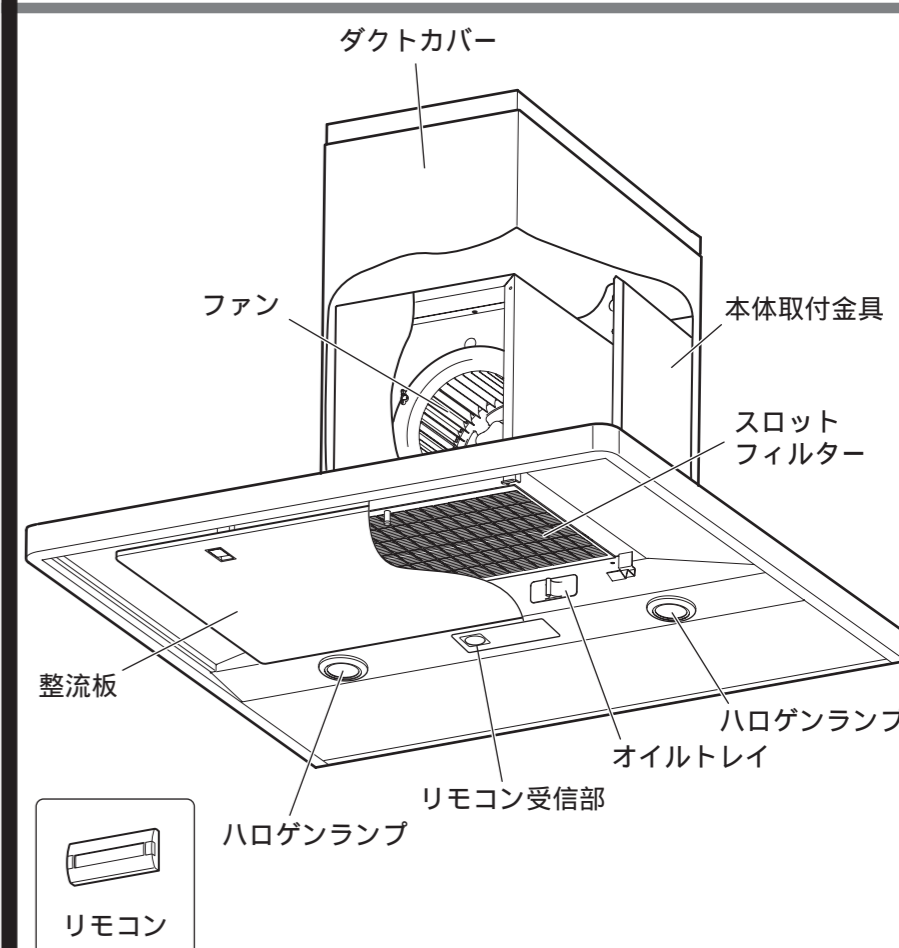
運転中は羽根の中に指や物を入れないこと
けがをすることがあります。

本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実に行うこと
落下により、けがをすることがあります。

浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと
（浴室用換気扇をお使いください。）
感電および故障の原因になります。

羽根や部品の取り付けは確実に行うこと
落下によるけがをすることがあります。

各部の名称



取り付け前の調査と準備

注意

レンジフード本体の取付工事は、十分強度のある取付面または補強板等に確実に行うこと
落下によりけがをすることがあります。
壁材が薄く弱く振動音が発生することがあります。

レンジフード取付面の木部に、取り付け用木ねじが確実に届いているかを確認すること
本体の取り付け用木ねじは、45mmの長さのものと同梱されていますが壁下に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取り付け用木ねじが確実に木部に届くことを確認してください。

1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。 **製品質量 37 kg**

板張りの場合
板厚が20mm以上の場合は直接板に取り付けてください。
板厚が20mm以下の場合には壁に補強板を埋め込み補強板にレンジフードを取り付けてください。
コンクリート、タイル壁の場合
あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。
土壁の場合
柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでおいてください。

2 別売部品の準備
排気工事に伴って別売部品の準備が事前に必要です。（詳しくは別売部品の項をご参照ください。）

3 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、ガス器具の上面からレンジフード本体下面まで80cmです。
火災予防条例では、グリッドフィルターの下端がレンジの真上80cm以上となっています。

4 電源コンセント・ブレーカー
コンセントおよび電源ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相100V）
コンセントは、JIS C8303 2極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

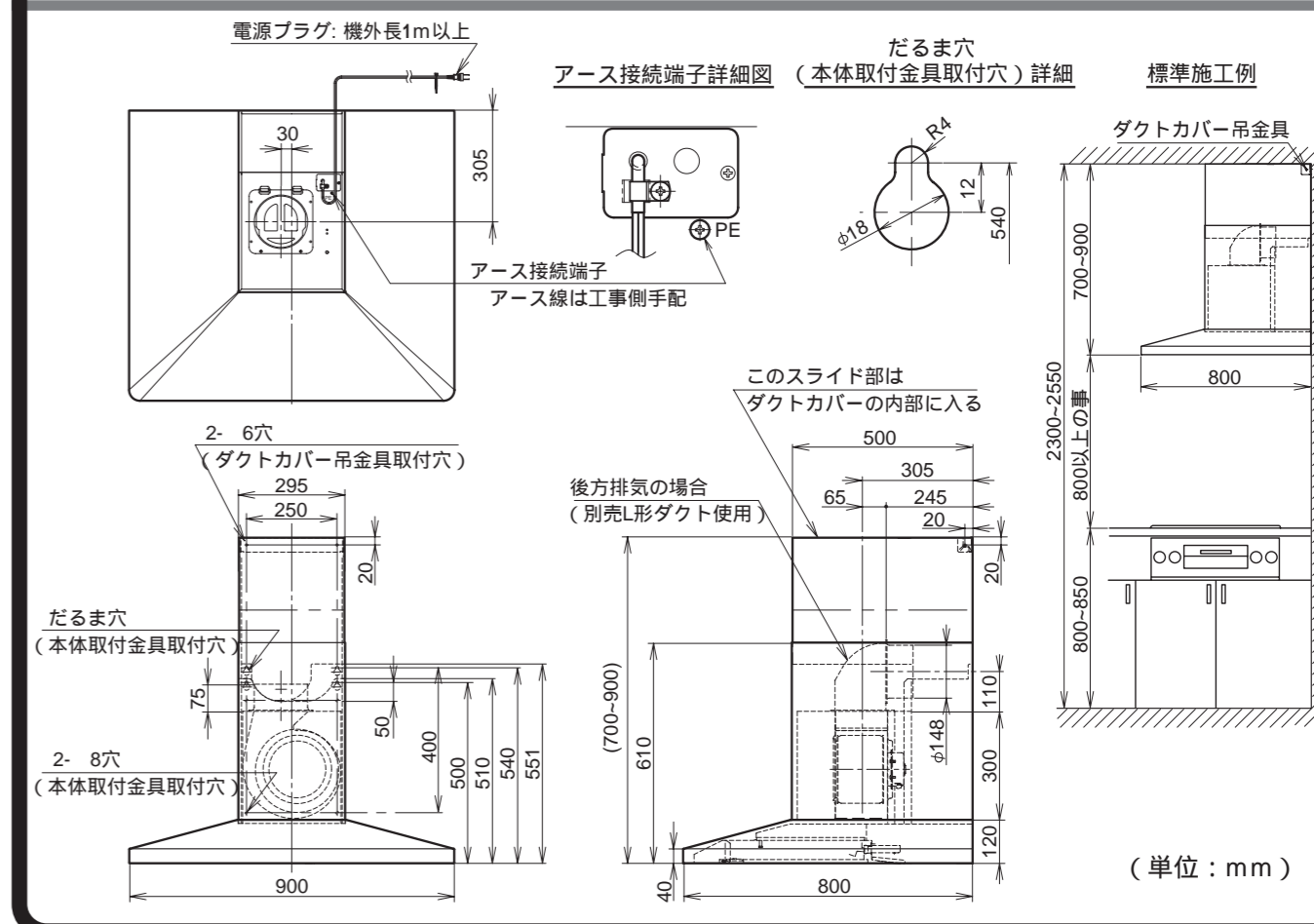
取り付け上のご注意

ガス器具の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。ガス器具はレンジフードの前面より手前にはみ出しで設置しないでください。排気効率が低下します。
レンジフードの取り付けは、薄板の金属部（壁内ラス網等）と接触しないように、十分注意して工事してください。なお、本体の壁への埋め込みは、絶対にやめてください。漏電した場合発火することがあります。
排気工事をされる場合、建築基準法（同施行令）および消防法等の関連法規に従って施工してください。
屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は50Pa時400cm²/h以上のものをご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。

非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいじしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
周囲温度が40℃以上になる所には取り付けしないでください。
火災・故障の原因となります。
製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
電源は専用コンセントを付けてください。
火災・感電の原因となります。
製品の取付工事は手袋を着用してください。
薄板の切り口などでけがをすることがあります。
製品はガス器具の真上に取り付けしてください。なお、製品取付高さは、製品の下端がガス器具の真上80cm以上になるようにしてください。

レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向50cm以上離れて取り付けしてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因となります。建物が密閉されている場合は、約400cm²程度の空気取入口を設けてください。
部屋の中央で料理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、より優れた換気ができます。
ダクトの不燃処理について
・ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。

製品寸法図



付属品	リモコンスイッチ 運転操作をリモコンでコントロールします。 形状は機種により異なります。	ダクトカバー（1個） ダクト取付部をカバーします（高さ調節可能） ダクトカバー取付ねじ M4×8（2本）
	排気口（1個） 本体とダクトの接続に使います。逆風防止シャッター付きです。取付ねじは本体に取り付けています。	ダクトカバー吊金具（1個） ダクトカバーを固定します。
	ソフトテープ（1本） 排気口とダクトとの隙間をふさぐのに使います。	座付ねじ 5.1×4.5（6本） 本体とダクトカバー吊金具の取り付けに使います。

取り付けかた

1. 付属品の確認

梱包箱からダクトカバー、ダクトカバー吊金具、リモコン等の付属品を取り出し、右上項の付属品一覧により不足がないか確認してください。取扱説明書、リモコン、この取付説明書は必ずお客様にお渡しください。

保護用のクッション材と固定テープは取付作業が完了するまでキズ、破損防止のためはずさないでください。

注意

製品取り扱いの際は、厚手の手袋をすること
ステンレス鋼板の切り口や角でけがをすることがあります。

2. 排気方向の決定

警告

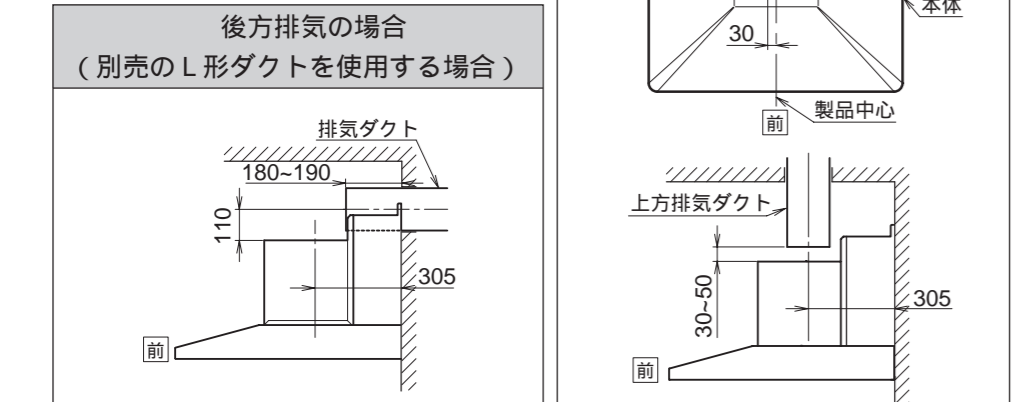
メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けすること
漏電した場合、発火したり感電することがあります。

注意

浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと
感電および故障の原因になります（浴室用換気扇をお使いください）。

1 製品寸法図を参照し、壁穴を開けてください。（手順6、図6参照）

2 150のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを壁の開口部にレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げてください。（コンクリート、タイル、土壁の場合）

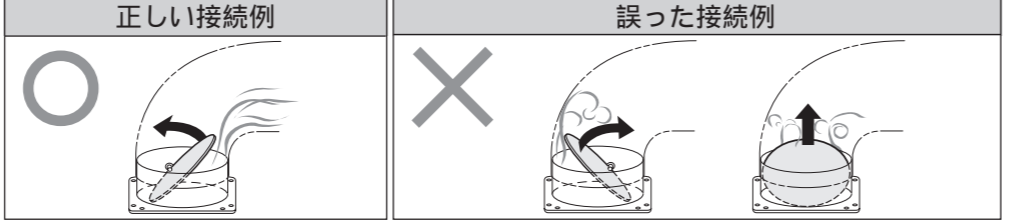


3. 排気用部品の準備

上方排気の場合
排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。本体に付いているねじ2本を取りはずした後、付属品の排気口を取り付けます。取付方向は右図を参照してください。

後方排気の場合（別売のL形ダクトを使用する場合）
排気口に付属品のソフトテープを貼り、別売のL形ダクトに取り付けます。取付方向は、シャッターの開閉方向が下になり、レンジフードを運転していない時はシャッターが閉じるように取り付けます。
排気口は、L形ダクトに付属の取付ねじ4本でL形ダクトに取り付けてください。

別売のL形ダクトを使用しないで、排気口に直接ダクトを接続して後方排気する場合は、シャッターの開く向きに注意して排気口を取り付けてください。下図の「誤った接続例」の場合、排気不良や異常音の原因となります。



4. 本体の取り付け

注意

本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実に行うこと
落下により、けがをすることがあります。
部品の取り付けは確実に行うこと
落下により、けがをすることがあります。

別売部品の組み立ては各々の説明書をご確認ください。

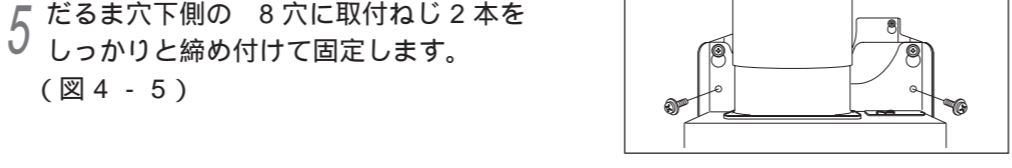
1 本体から本体取付金具を取り外します。本体上部の吊金具取付ねじ2本を、隙間5mm程度までゆるめ、その下の取付ねじ2本をはずします。本体取付金具をスライドさせて取りはずしてください。（図4-1）

2 製品寸法図を参考に本体取付金具の、だるま穴用座付ねじをねじ込みます。だるま穴位置（左右各1か所）に座付ねじ（5.1×4.5）を壁面との隙間5mmまで締め付けてください。（図4-2）

3 座付ねじに本体取付金具のだるま穴を引っ掛けた後、しっかりと締め付け、さらに下側を座付ねじ2本で固定してください。（図4-3）

4 手順1でゆるめた本体取付金具の取付ねじ2本と本体のだるま穴、本体取付金具のだるま穴と本体下部の座付ねじを各々引っ掛けた後、しっかりと取付ねじを締め付けて固定します。（図4-4）

5 だるま穴下側の8穴に取付ねじ2本をしっかりと締め付けて固定します。（図4-5）

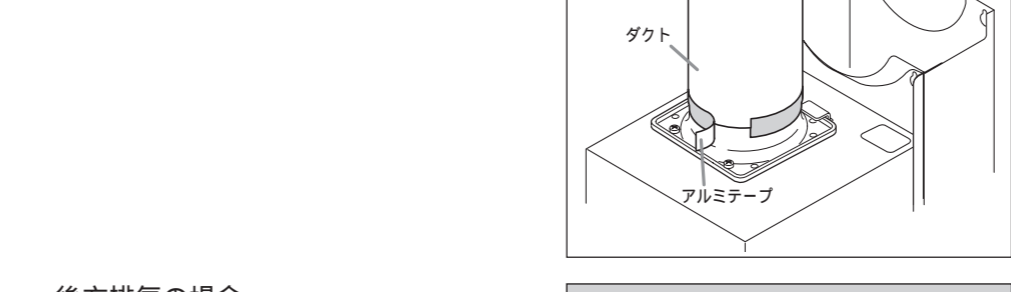


5. ダクトと排気用部品の接続

ドリリングクワッピンなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじが当たらないように、図のドリリングクワッピン使用範囲内に固定してください。（図5-1）



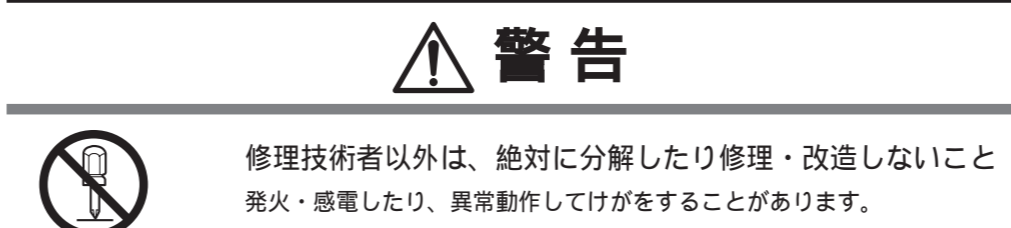
上方排気の場合
風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）を行ってください。



後方排気の場合
（別売のL形ダクトを使用する場合）

1 本体に付いているねじ2本を取りはずした後、L形ダクトを本体上部の差込口に差し込みながら、排気口をダクトに挿入し、取付ねじ2本で取り付けください。

2 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）を行ってください。



6. 電気配線

警告

修理技術者以外は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作しけがをすることがあります。
交流100V以外では使用しないこと
発火・感電の原因になります。

配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行うこと
誤った配線工事は感電や火災の恐れがあります。

アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電することがあります。アースの取り付けは販売店にご相談ください。

コンセントは、JIS C8303 2極差込接続器 15A 125V をご使用ください。コンセントはダクトカバーサイズに合わせて図の範囲内に設置してください。（図6）必ずアース（D種接地工事）をしてください。アース接地位置は「製品寸法図」を参照してください。アース線は施工側にて手配してください。電源プラグをコンセントに差し込みます。



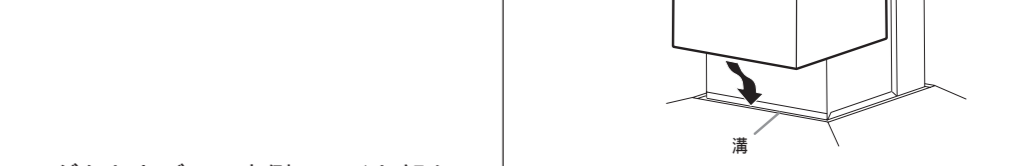
7. ダクトカバーの取り付け

1 ダクトカバー吊金具を壁の開口部に取付ねじ2本で取り付けます。（図7-1）

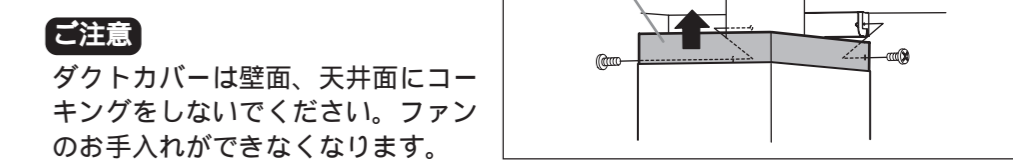
レンジフードのセンターに合わせて、注意しながら取り付けください。



2 ダクトカバー底部を本体上の溝部分にセットします。（図7-2）

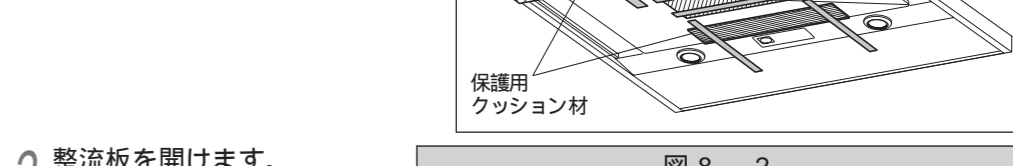


3 ダクトカバーの内側スライド部を天井まで引き上げ、付属の取付ねじ2本でダクトカバー吊金具に取り付けます。（図7-3）



8. 運転準備

1 クッション材を取りのぞきます。保護用のクッション材と固定テープ、および取扱説明書を取り除いてください。（図8-1）



2 整流板を開けます。整流板のラッチのレバーを引き出しながらゆっくりと手前に倒してください。（図8-2）

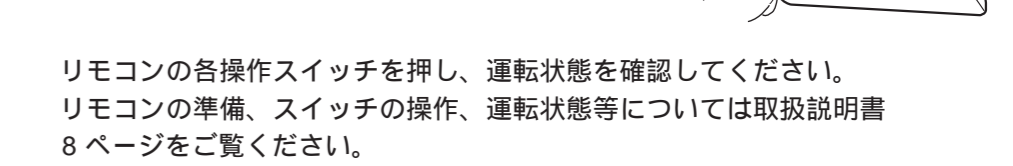


3 オイルトレイ、フィルター等が所定位置に取り付けられているか確認し、整流板を開けてください。

9. 試運転

注意

運転中は危険ですから羽根の中に指や物を入れないこと
けがの恐れがあります。



リモコンの各操作スイッチを押して、運転状態を確認してください。リモコンの準備、スイッチの操作、運転状態等については取扱説明書8ページをご覧ください。運転時、各連動の排気が正しく行われていること、異常な騒音、振動がないこと、屋外の排気出口から排気されていることを確認してください。取り付けまたは施工に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

10. お客様への説明

取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

製造元 **富士工業株式会社**

本社・営業部 〒229-0006 相模原市淵野辺2丁目1番9号
TEL 042(768)3754 (営業部)